

2014年アジアベンチプレス選手権大会

平成26年9月13-16日

キルギスタン、ビシュケク市

報告・写真：吉田寿子

アジアのベンチ大会がキルギスタンで開催された。会場は4000人も観客が入るコンサートホールで、広い舞台で、参加選手がベンチプレスアジアナンバーワンの座を争った。

キルギスタンは「アジアのスイス」と呼ばれているようだ。

確かにキルギスタンの首都、ビシュケクは、遠くに7000m級の山々が聳え、万年雪が真っ白に光っていた。その山のなかに突如、湖が存在するなど、神秘をたたえた山々の景観が待っているらしく、ヨーロッパ方面からの観光客でホテルは賑わっていた。

山までは20kmから60kmくらいの距離だそうだが、道路事情が悪く、観光に行くには一日、あるいは一泊で行かなければならない、ということで、「神秘をたたえたキルギスタン風景」を見ることは断念し、埃っぽく、旧ソ連時代の威圧的な建物がそのまま残っているビシュケクの街に一週間とどまった。

キルギスタンでは、今回の大会が初の国際大会開催で、IPFのパワーリフティングが十分振興しているとは言えないようだった。器具などもカザフスタンから借りてきたようだったし、運営協力をしようとしていたウズベキスタンが、突然、8/1からドーピング違反を問われ、IPFから資格停止処分を受けたため、ウズベクのエントリー選



会場風景

写真左；会場前には馬を持ち上げる勇者のモニュメントがあった。 写真右；主催者のバキットさん



手全員が参加できず、また、役員の参加も禁止となったため、キルギスタンの主催者バキットさんを助けたのは、3人の英語を話す娘さんと息子、補助員4人の7人だけになってしまった。

進行席には誰もおらず、また、審判も少なく、人手不足で、日本選手団長の石本直樹さんをお願いして、手の空いている選手に、大会運営を手伝って頂いた。

サブジュニア部門

残念ながら今年は、日本から誰もこの部門には参加していない。つい先日、パワーリフティングの世界サブジュニア選手権がハンガリーで開催されたばかりであることを考えると、日本選手にとっては、大変、参加しにくいことだろう。いずれにせよ、スポーツの発展には、次世代の育成ということは、大変、大きな課題だ。このアジア選手権では、キルギスとカザフの両国の戦いがどのクラスでも繰り広げられ、66kg級ではキルギスの選手がアジアジュニア新記録を打ち立てた。

ジュニア部門

埼玉県ストロングライン所属の谷澤直紀選手が59kg 120kgとバーをきれいに押し、三本目は銀メダルをかけて142.5kgに挑んだが惜しくも失敗。銅メダルを獲得した。試合を終えた後はセコンド、そして、アジアの進行役員と大変忙しい初国際大会だったのではないだろうか。

66kg級では、昨年のモンゴルのアジア大会で失格してしまった池田武選手(日本橋学館大学)がリベンジをかけてビシククに挑んできた。去年と比べると、格段に試技が安定し、また、記録も伸びている。160-170-180kg三試技全部に成功した。順位は、カザフスタンの選手に同重量体重差の逆転をかけられ惜しくも、銀メダルであったが、成長の跡がはっきりと見えた試技だった。

テクニカルコントローラーを務める石本国際

審判員(日本選手団団長)

級で、110-



写真左；カザフの選手と同記録体重差、お互いに健闘をたたえ合った池田選手 写真右；ジュニア74kg級二位、佐藤選手

「さあ、行くぞ!」ジュニア105kg級、石塚選手



74kg級に出場した北海学園大学の佐藤紳一郎選手は、スタートの160kgをしっかりと取った後は、175kgにジャンプし、残念ながら失敗。カザフスタンの選手と力が拮抗していたので、一つの取りこぼしが順位を大きく左右する。三本目は重量を、182.5kgとし、カザフの選手を抜くべき頑張ったが、惜しくも失敗、カザフの選手が優勝、佐藤選手は、二位となった。

105kg級には、青山学園大学の堀口耀介選手が出場する。世界ジュニアパワーリフティング選手権では、

93kg級でベンチのアジア記録242.5kgを樹立、更に、記録を書き換えようと、二週連続の国際試合参加となった。アジア記録は残念ながら成らなかったが、245kgをマークして優勝、ジュニア部門のベストラフター第二位を獲得した。二位には、東洋大学の石塚峻太選手が170-182.5kgをマーク。三回目は195kgに挑んだが惜しくも失敗となった。表彰では、1位と2位の台に日の丸が上がった。

120kg級では国土舘大学の天野啓太選手（TXPジム所属）が175kgスタート、2本目の182.5kgは惜しくも失敗だったが、3本目で取り返し、金か、銀か。カザフの結果待ちとなった。カザフスタンの選手が天野選手に185kgの逆転を仕掛け、これを成功させた。優勝はさらわれてしまったが、大健闘をだった。

どのクラスも接戦で、お互いに競いあいながら、次世代をぜひ担っていてもらいたいと思う。団体戦では、カザフスタン1位、2位、日本、3位には、キルギスタンが入った。

マスターズM1の部

74kg級優勝の鈴木重成選手は、一本目170kgを確保。2本目でアジア記録となる220.5kgに挑む。これは残念ながら失敗。更に、第三試技では、世界新記録となる231kgに挑戦。こちらも失敗となってしまった。果敢な記録への挑戦は、次の機会までお預けとなった。

93kg級では、兵庫県パワーハウス赤穂所属の小笠剛志選手と、茨城県BIGGUNS所属の竹村明久選手が、激しく優勝の座を争った。竹村選手は余裕の170kgでスタートする。国際大会初出場の小笠選手は、失格しないようにと、緊張しながらも、175kgを第一試技に選び、成功。二本目は二人共182.5kgをマーク。体重の軽い小笠選

手が優勝に一步近づく。第三試技では、相手の力量を図りながら、小笠選手は192.5kgを選び、これを確保。体重の重い竹村選手は即座に195kgに重量を変更し、集中しながら、自分の出番を待つ。どのカテゴリーでも、一



写真左；ノーギアで第一試技に望む佐藤選手、写真右；さあ、世界記録を狙うぞ!、気合を入れる鈴木選手

写真右;アジア記録を出して M 4、59kg 級で優勝した大瀧選手。写真右;M2、59kg 級、優勝の飯塚選手。



つでも上位を目指して、第三試技では、コーチ並びに選手は、重量の変更、変更が続く。進行席が混乱し、試合が一時中断するが、竹村選手は集中力を途切れさせることなく、見事に 195kg を押して、優勝し、M1 部門のベストリフター第三位を獲得した。

120kg 級では、今回の日本チームの副団長を務めた北海道医療大学 WTC の岡山三紀選手は、何かと日本選手のために走り回り、試合の前から少し疲労気味。第一試技の 240kg はしっかり取ったものの、第二、第三は失敗し、残念ながら、カザフの選手に優勝を譲ってしまったが、M1 ベストリフター第二位となった。岡山副団長に日本選手団一同は、感謝の応援を送っていた。

M1 部門では日本チームは団体 1 位となった。

マスターズ M 2 部門

59kg 級に参加した茨城県水戸市パワーリフティング協会の飯塚進市選手は、ノーギア 80kg でスタート。二本目 115kg を確保したが、挙げたかった第三試技の 120kg は失敗した。仕事の勤務状況が変わり、練習時間が思うように取れなかったと、120kg を取れなかったことを悔しがっておられたが、次の挑戦に期待したいところだ。

66kg 級に出場したパワーハウス所属の中村英明選手は、飯塚選手と同じく第一はノーギアで 110kg を確保。第二では、130kg、第三で自己ベストとなる 140kg に挑んだが、こちらは惜しくも失敗。中村選手は、埼玉県の学校の先生で、生徒さん達を置いてのアジアベンチ参加。できれば、仕事のために一日でも早い帰国を希望してお

写真下; マスターズ 2、74kg 級優勝の松岡選手と準優勝の内村選手



よっしゃ、一本とったぞ、M4、74kg 級優勝の安居選手



写真左：M1、120kg級2位、ベストリフター二位の岡山選手。写真右：試合の後は役員。右、谷澤選手、一人おいて中村選手

られたが、ウズベキスタン経由キルギスタン行の飛行機が毎日飛んでおらず、全日程の参加となった。アジア連盟としては、試合後、進行席に連日入り運営を手伝っていただき、大変助かった。

74kg級には神奈川県のアサマトレーニングセンター所属の松岡俊男選手後、茨城県コスモスポーツ所属の内村政夫選手がエントリーしている。松岡選手は、一本目の172.5kgを失敗、同じく内村選手も第一試技140kgを落としてしまい、日本選手どうした、と、ハラハラしたが、二人共2本目はこれらをしっかりと、一安心。松岡選手は2本目で優勝を確保、三本目は190kgに挑んだがこちらは残念ながら失敗。内村選手は第三試技の145kgも成功させ、第二位となった。松岡選手は、M2部門ベストリフター第三位を獲得した。

83kg級には、日本チーム団長の石本直樹選手が出場する。副団長の岡山選手とともに、日本チームへの気配りから、なかなか、試合に集中するのは難しかったかもしれないが、第二試技で200kgを確保、第三の210kgは惜しくも失敗であったが、M2部門のベストリフター第一位を獲得、また、団体でも日本が優勝した。

M2部門ベストリフター第二位となったのは、今大会主催者のバキット選手。キルギスタンでは、他連盟のパワーリフティングの勢いが強いそうで、何かと気苦労の多かった大会主催となったようだが、大会期間中に、今回参加していたIPF会長のガストンとアジア連盟会長の吉田進とがキルギスタンの政府関係者に会い、世界におけるIPF



男子一般の部59kg級を制した富山県西武組の岩崎量也選手

74-83kg級の選手が勢ぞろい（左から、石本選手、安居選手、内村選手、吉岡選手、鈴木選手、佐藤選手。）



の立場を説明し、政府からキルギスタン連盟を公認する旨通知を受けたようで、大変、喜んでおられた。日本の北川武志選手といつものぎを削る戦いを繰り広げておられるが、今回の主催で、疲労困憊。本人にとっては不本意な記録であったろうが、大会主催ご苦労様と、心の底からバキットさんに感謝。

マスターズ M 3部門

66kg級に出場の佐藤恵二選手（京都府、個人）。この部門の世界

記録保持者だ。更に記録を伸ばすべく、まずは、一本目を120kgとノーギアで軽々と試技を成功させ、171.5kgの世界新記録に挑戦する。これは惜しくも失敗。第三でも残念ながら成功せず、記録の更新は次回に持ち越された。それにしても、不本意な試技でも、この部門のベストリフター第一位を獲得してしまうところは、佐藤選手がいかに実力があるかの証左でもある。また、団体でも2位を獲得した。

マスターズ M 4部門

59kg級では、大瀧順巳選手（愛知県、スーパークラブ名古屋）が出場、第一を80kgと軽く取ると、第二試技では、アジア新記録となる100kgに挑戦し軽々とこれを成功させた。第三の105kgは惜しくも失敗であったが、このクラスの優勝と、M4のベストリフター第一位を獲得した。

74kg級では、富山県高岡トレーニングセンターの安居民雄選手が、102.5-112.5と成功させて、優勝。富山県では数々の表彰を受けておられるが、また、ひとつ活躍履歴が加わった。もう、この土地に来ることはないかもしれない、と、ビシュケクの街や観光を楽しんでおられたが、それは、年齢にかかわらず、みなさん同じ。国の内外を問わず、すべての試合、すべての遠征は一期一会。そこで、最大限の力を発揮するから、試合は面白い。M4ベストリフター第二位に入った。

団体では、日本がM4部門優勝となった。

一般の部

59kg級では、富山県西部組所属の岩崎量也選手が、追いかけるカザフの選手を振り切って、優勝した。カザフの選手より体重の重い岩崎選手。第一試技の155kgを軽く取ると、カザフは第二から岩崎選手に重量をかぶせてくる。岩崎



93-105kg男子勢ぞろい、左から小笠選手、竹村選手、石塚選手、堀口選手、そして香港の橋井選手

選手が第二で 160kg を取ると、カザフは第三試技で 160 を取る。あとは、最終試技で岩崎選手が 162.5kg で逃げきれぬかどうかで優勝の行方が決まる。日本選手団の大声援を受け、岩崎選手、これを見事に成功させ、アジアチャンピオンの座を獲得した。岩崎選手はベンチシャツについても様々な考察をしており、海外遠征では、日本チームの談笑の中でも、様々に学ぶことがあり、大変、貴重な機会だと思う。

66kg 級には、国際大会初デビュー、東京都、ノーリミッツの西尾純選手がアジア選手権に挑戦した。一本目 150kg は軽々と成功したが、二本目、三本目の 165kg を失敗し、大変悔しがっていた。だが、国際大会では、私は、「記録より順位」だと思っている。「順位」もまた、その大会限りの出会いなのだから。初デビュー、初優勝、おめでとうございます。

団体では日本はカザフ、イランに続いて第三位となった。

男子一般の部でベストリフターとなったのは、カザフスタンの 105kg 級のセルゲイ選手で 308kg のアジア新記録をマークした。また、日本国籍、香港代表の橘井マサヒト選手は、イランの選手と激しく戦い、戦いを制して 93kg 級で優勝し、ベストリフターでも 3 位に入った。

ドーピング検査では、今回は、IPF 会長のガストン主導で検査が行われ、ドーピング違反失格があけたばかりのカザフスタンやイランの選手が多く指名されていたようだ。カザフにしても、イランにしても、一人でもドーピング検査失格者がでてしまうと、また、一年の資格停止処分が待っている。選手一人一人に各国連盟が教育と指導をしていかないと、いつまでもパワーリフティングはドーピング問題に悩まされ続けることになる。カザフスタンのように、ドーピング検査違反による失格は、アジア連盟会長の責任だなどと、責任転嫁をするのではなく、各国連盟、身近に接するコーチが選手個々にしっかりと教育指導をして欲しいと、心から願い、IPF が IOC 公認スポーツになることを祈りたい。(判断は 2015 年 12 月に下されるということだ。)

はるばるキルギスタンというまだまだ日本人にとっては未知の国に来て、試合を出来たのも、JPA が私達選手、役員を派遣してくださるからこそ実現できたこと。

JPA 役員の皆様、国際委員会の皆様に心からお礼を申し上げたい。

ありがとうございました。



大会が終われば各国入り乱れて、写真撮影。

Male Results of 2014 Asian Bench Press Championships
 Sept 13-16, 2014
 Bishkek, Kyrgyz Republic

Place	Surname	First name	Nation	Birth Year	Body Weight	Benchpress			Best BP	Formula Point
						1	2	3		
Subjunior										
53 kg										
1	Khabidulla	Zhanasil	Kazakhstan	1999	52.10	92.5	97.5	102.5	102.5	100.3783
2	Shishkin	Sergey	Kazakhstan	1999	52.90	85.0	97.5x	100.0	100.0	96.39
3	Toichuev	Aslan	Kyrgyz Republic	2000	52.80	50x	50.0	60x	50.0	48.29
59 kg										
1	Mariev	Toizhan	Kazakhstan	1996	58.30	112.5	117.5	130.0	130.0	113.867
2	Khashimov	Sabir	Kyrgyz Republic	1996	57.70	110x	110.0	120x	110.0	97.295
66 kg										
1	Ramatov	Akzholtoi	Kyrgyz Republic	1996	65.90	155.0	165.0	175x	165.0	129.723
74 kg										
1	Kuntuganov	Rustam	Kazakhstan	1997	73.80	135.0	140.0	152.5	152.5	109.9068
2	Shaukatov	Zhavlan	Kazakhstan	1998	72.00	145.0	150.0	155x	150.0	110.055
3	ALIREZA	MANSOURI	I.R.IRAN	1997	70.60	100.0	110.0	115x	110.0	81.895
93 kg										
1	Mukhametali	Dinislam	Kazakhstan	1997	87.60	145x	145.0	155x	145.0	93.887
Junior										
53 kg										
1	Alymbek uulu	Akzhol	Kyrgyz Republic	1994	53.00	120.0	130.0	140x	130.0	125.073
59 kg										
1	Makhmudov	Alisher	Kazakhstan	1995	58.00	150.0	155.0	170.0	170.0	149.634
2	Alymbek uulu	Azamat	Kyrgyz Republic	1992	58.70	140x	140.0	165x	140.0	121.842
3	Tanizawa	Naoki	Japan	1995	58.80	110.0	120.0	142.5x	120.0	104.268
66 kg										
1	Dorokhov	Andrey	Kazakhstan	1992	65.10	167.5	172.5	180.0	180.0	142.956
2	Ikeda	Takeru	Japan	1993	66.00	160.0	170.0	180.0	180.0	141.336
74 kg										
1	Tsarenko	Dmitry	Kazakhstan	1991	72.20	165.0	175.0	185x	175.0	128.135
2	Sato	Shinichiro	Japan	1993	73.50	160.0	175x	182.5x	160.0	115.648
83 kg										
1	Makhamatkul u	Sagynbek	Kyrgyz Republic	1991	79.50	145.0	160x	160x	145.0	99.383
93 kg										
1	Li	Dmitry	Kazakhstan	1991	93.00	230.0	242.5	252.5	252.5	158.62
2	Govorov	Ivan	Kazakhstan	1995	90.20	155.0	160.0	165.0	165.0	105.22
105 kg										
1	Horiguchi	Yosuke	Japan	1993	94.80	232.5	245.0	255x	245.0	152.537
2	Ishizuka	Shunta	Japan	1994	96.10	170.0	182.5	195x	182.5	112.931
120 kg										
1	Akpalenov	Mars	Kazakhstan	1991	108.00	175.0	182.5	185.0	185.0	109.501
2	Amano	Keita	Japan	1993	106.40	175.0	182.5x	182.5	182.5	108.551
M1										
74 kg										
1	Suzuki	Shigenari	Japan	1973	73.80	170.0	220.5x	231x	170.0	122.519
83 kg										
1	Rakhimov	Alimbek	Kyrgyz Republic	1966	80.40	170.0	180.0	190x	180.0	122.508
2	Beisekeyev	Marat	Kazakhstan	1967	82.20	115.0	127.5	132.5x	127.5	85.6035
93 kg										
1	Takemura	Akihisa	Japan	1973	92.00	170.0	182.5	195.0	195.0	123.142
2	Ogasa	Tsuyoshi	Japan	1974	91.70	175.0	182.5	192.5	192.5	121.756
3	Aitikeyev	Miktibek	Kyrgyz Republic	1971	91.50	150.0	170x	170.0	170.0	107.627
120										
1	Altaibayev	Andrey	Kazakhstan	1972	111.30	240.0	250.0	255.0	255.0	149.532
2	Okayama	Miki	Japan	1972	108.00	240.0	247.5x	250x	240.0	142.055
120+										
1	Koiak	Hassan	Lebanon	1972	124.50	190.0	192.5x	215x	190.0	108.357
M2										
59 kg										
1	Iitsuka	Shinichi	Japan	1956	58.00	80.0	115.0	120x	115.0	101.223
66 kg										
1	Nakamura	Hideaki	Japan	1960	65.60	110.0	130.0	140x	130.0	102.583
74 kg										
1	Matsuoka	Toshio	Japan	1963	73.40	172.5x	172.5	190x	172.5	124.8038
2	Uchimura	Masao	Japan	1959	73.70	140x	140.0	145.0	145.0	104.603
3	Surtaev	Aleksandr	Kyrgyz Republic	1961	72.40	105x	105.0	120x	105.0	76.7235
83 kg										
1	Ishimoto	Naoki	Japan	1962	82.20	180.0	200.0	210x	200.0	134.28
2	Aitkaliyev	Sagangaly	Kazakhstan	1964	81.80	140.0	145.0	150.0	150.0	101.01
3	Adilkhanov	Serikkazy	Kazakhstan	1963	80.70	115.0	125.0	130.0	130.0	88.27
93										
1	Kerimbekov	Bakyt	Kyrgyz Republic	1961	90.50	200.0	220x	236x	200.0	127.32
2	Zheenaliev	Sergek	Kyrgyz Republic	1964	92.10	130.0	x	140.0	140.0	88.354
M3										

59 kg										
1	Ronzhin	Victor	Kazakhstan	1947	58.30	65.0	70.0	72.5x	70.0	61.313
66 kg										
1	Sato	Keiji	Japan	1952	65.70	120.0	171.5x	171.5x	120.0	94.572
93 kg										
1	Samusev	Yuriy	Kazakhstan	1950	92.20	125.0	135.0	142.5	142.5	89.889
120+										
1	Babichev	Vladimir	Kazakhstan	1949	124.00	90.0	112.5	120.0	120.0	68.496
M4										
59 kg										
1	Otaki	Masami	Japan	1942	54.40	80.0	100.0	105x	100.0	93.69
74 kg										
1	Yasui	Tamio	Japan	1942	72.60	102.5	112.5	115x	112.5	82.04625
2	Alzhanov	Talipbek	Kazakhstan	1942	66.60	80x	80.0	90.0	90.0	70.146
83 kg										
1	Malimonov	Robert	Kazakhstan	1941	75.40	65.0	80.0	85.0	85.0	60.3415
Open										
59 kg										
1	Iwasaki	Kazuya	Japan	1984	58.70	155.0	160.0	162.5	162.5	141.4238
2	Tenelov	Turar	Kazakhstan	1984	58.30	150.0	155.0	160.0	160.0	140.144
3	Esenaliev	Abdimalip	Kyrgyz Republic	1988	57.40	80.0	95x	95.0	95.0	84.4455
66 kg										
1	Nishio	Jun	Japan	1977	65.70	150.0	165x	165x	150.0	118.215
74 kg										
G	Sadanbaev	Maksat	Kyrgyz Republic	1985	74.00	115x	115x	115x	x	x
83 kg										
1	Shokhanov	Askar	Kazakhstan	1983	82.00	260.0	270x	270x	260.0	174.824
2	Dzhetibaev	Ruslan	Kazakhstan	1990	81.70	180.0	190.0	195.0	195.0	131.4105
G	Bazarkulov	Arstanbek	Kyrgyz Republic	1989	82.40	100x	100x	100.0	100.0	x
93 kg										
1	Kitsui	Masahito	Hong Kong	1978	92.60	245.0	250.0	257.5	257.5	162.096
2	Lamjav	Munkhbayar	I.R.IRAN		93.00	247.5	252.5	260x	252.5	158.62
3	Kairgaliev	Abay	Kazakhstan	1979	91.10	235x	235.0	242.5	242.5	153.866
4	Sadykov	Ruslan	Kazakhstan	1986	91.50	232.5	240x	245x	232.5	147.195
105 kg										
1	Vaigant	Sergey	Kazakhstan	1989	102.60	290.0	300.0	308.0	308.0	185.6
2	Shagdarsuren	Batzul	Mongolia	1982	104.40	210x	210.0	225x	210.0	125.748
120										
1	MAJID	SHAHNAVAZ	I.R.IRAN		113.70	250.0	257.5x	257.5x	250.0	142.7
2	Batsukh	Gantulga	Mongolia	1981	116.40	210.0	225.0	235x	225.0	130.32
120+										
1	MOSTAFA	PARVARESHROOH	I.R.IRAN		130.30	255.0	265.0	272.5	272.5	154.071
2	Daniel	Halabi	Lebanon	1987	141.60	190.0	192.5	210.0	210.0	117.158

Women's results
 2014 Asian Benchpress Championships
 September 13-16, 2014, Kyrgyz Republic

Place	BWT	Name / BY	Birth Year	Nation	BENCH PRESS			BP result	Wilks pts
					1.	2.	3.		
Subjunior									
43 kg									
1	42.40	Stupko	1997	Kazakhstan	45.0	50.0	55x	50.0	72.12
47 kg									
1	46.10	Stazaeva	1998	Kazakhstan	50.0	55.0	57.5	57.5	78.41
52 kg									
1	51.10	Dyachenko	2000	Kazakhstan	80.0	85.0	88.0	88.0	111.19
57 kg									
1	56.20	Omarkhanova	1999	Kazakhstan	45.0	50x	50x	45.0	52.80
63 kg									
1	62.40	Tolegenova	1996	Kazakhstan	80.0	87.5	90.0	90.0	94.77
2	62.30	Balan	1997	Kazakhstan	75.0	85x	87.5	87.5	94.66
84									
1	82.90	Nikolaeva	1998	Kazakhstan	85.0	90.0	100.0	100.0	89.77
Junior									
57									
1	55.30	Kim	1995	Kazakhstan	50.0	55.0	60x	55.0	65.36
63									
1	60.60	Abduraimova	1993	Kazakhstan	50.0	60.0	62.5	62.5	69.14
72									
1	66.80	Zhadyra Kabiyeva	1992	Kazakhstan	115.0	122.5	130x	122.5	125.97
2	66.60	Baimbetova	1992	Kazakhstan	50.0	57.5	60x	57.5	59.26
M1									
63									
1	59.90	Akkozova	1974	Kyrgyz Republic	60x	60x	60.0	60.0	66.98
72									
1	63.60	Derevianko	1973	Kyrgyz Republic	40.0	45.0	50.0	50.0	53.32
M2									
63									
1	61.50	Samatova	1962	Kyrgyz Republic	60.0	70.0	75.0	75.0	82.04
72									
1	67.60	Koneva	1962	Kyrgyz Republic	60x	60.0	65x	60.0	66.27
Open									
52									
1	51.10	Maleeva	1977	Kyrgyz Republic	40.0	42.5x	60.0	60.0	75.81
57									
1	56.60	Nazarenko	1966	Kazakhstan	90.0	100x	100.0	100.0	116.68
2	56.60	Ip	1961	Hong Kong	70.0	80x	92.5x	70.0	81.68
63									
1	62.60	Kryukova	1985	Kazakhstan	115.0	120.0	125.0	125.0	134.90
72									
1	68.40	Iskandarova	1974	Kazakhstan	70.0	120.0	135.0	135.0	136.48
84+									
1	89.90	Baiymbetova	1988	Kyrgyz Republic	90x	90x	90.0	90.0	62.84
2	92.90	Fedorova	1974	Kazakhstan	60.0	70.0	75x	70.0	77.71